

みのかも 文化財ノート

No. 6

発行 2010(平成22)年3月31日
編集 美濃加茂市教育委員会教育部文化振興課(みのかも文化の森)
〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299-1
TEL 0574-28-1110 FAX 0574-28-1104
みのかも文化の森H.P. <http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

2010.3.31

美濃加茂市教育委員会では、市内に残る貴重な文化財の保存・保護活動ばかりでなく、調査・普及活動をおこなっています。みのかも文化財ノートは、市内の文化財に関連しておこなわれた様々な事業を紹介するものです。

まもる

新指定文化財 彫刻「木造如来坐像」

「木造如来坐像」は、平成21年5月に開催された美濃加茂市文化財保護審議会(会長 林由是氏)で美濃加茂市指定有形文化財(彫刻)の新指定について審議され、美濃加茂市教育委員会の議決を経て、同年7月21日に指定文化財となりました。

仏像は像高39.1cmの漆箔、一木造です。顔を前に向け、衲衣(僧が着る法衣)を着けて結跏趺坐(座り方の一種)をしています。近世に螺髻の彫刻や像全体を修理したあとが見られ、両腕、肉髻朱、白毫等が失われています。伏し目がちな眼、突き出し気味の顎、薄い胸などに定朝様式(定朝は平安中期の仏師)がうかがえる一方、面長な顔が鎌倉彫刻の形式を示しています。市内最古級と考えられ、12世紀頃の木造如来坐像として貴重なものです。

今回の追加で、美濃加茂市指定文化財は34件(うち彫刻は6件)となりました。

参考：市内の国指定文化財1件(天然記念物の地域を定めずを除く)、県指定文化財10件。



木造如来坐像

まもる

天然記念物の保護活動

平成21年7月25日から26日にかけての梅雨前線豪雨により、伊深町内の河川に土砂が堆積し、三和町内の護岸が被災しました。これに伴い、土砂の浚渫工事と災害復旧工事が1月から3月にかけて行われました。工事区間には、これまでの調査で国指定天然記念物のネコギギの生息が確認された箇所もあったため、工事着工前に生物調査を実施しました。全工区内の工事で28匹のネコギギを保護し、工事の影響の少ない場所に放流しました。

また、木曾川での護岸工事、今渡ダムのダムゲートでは、工事着工前の生物調査で、特別天然記念物オオサンショウウオ4匹を保護しました。このことから木曾川流域にオオサンショウウオが生息していることが確認されました。



保護されたネコギギ



子どもの水あそび(昭和43年)佐野一彦撮影

しらべる・つたえる

ていねいな暮らしのあったころ

佐野一彦は、当地の民俗・風俗の調査研究を深めた人物です。なかでも、昭和30年代後半～40年代の伊深町で、山村の人々のふだんの暮らしぶりや周囲の自然を写真などの記録に残しました。今回の展覧会では、当時に比べて、少し行き過ぎたともいえるかもしれない、現在のわたしたちの暮らしを見つめ直すための機会となりました。

また、調査の成果は「広報みのかも」の毎月1日号へ連載されており、ふるさとファイルno.14も刊行されました。

まもる

文化財防火デー

1月26日(火)には、重文旧太田脇本陣林家住宅、太寧寺(加茂川町)など含めた市内5カ所において、文化財を火災などの災害から守るために、文化財を管理する方だけでなく、地域の方々や消防署をはじめとした関係機関の協力を得ながら、消火訓練と立入検査を実施しました。



正眼寺のしだれ桜(伊深町)



消火訓練(旧太田脇本陣林家住宅)

ひろめる

市指定天然記念物 正眼寺のしだれ桜

正眼寺の本堂前の庭にあるしだれ桜は、ヤマザクラの一品種で、枝が細く垂直に垂れ下がっているのが特徴です。1971年(昭和46年)8月27日に美濃加茂市指定天然記念物とされた「正眼寺のしだれ桜」は、目通り約2.8mあります。今年度は老朽化した文化財標柱の修繕を行いました。

まもる・しらべる

埋蔵文化財の保護

美濃加茂市開発事業指導要綱に基づく1,000㎡以上の開発計画が26件、砂利及び岩石採取協議会で協議対象となったものが9件、その他埋蔵文化財包蔵地の照会が169件ありました。そのうち、試掘確認あるいは工事立会について意見及び対応したものが62件あり、埋蔵文化財保護に関する指導等を行いました。

なかでも中山道会館バス駐車場予定地では、近世末～近現代の陶磁器や礎石などの遺構が検出されたため、記録作成しました。このことから、現在の地表面下には、宿場町の町並みの一部が残されている可能性があり、今後の調査の進展が期待されます。



検出された建物の礎石(太田本町3丁目)